

〈特集「情報標示の諸要素」〉

## フランス語における情報標示の諸要素 Markers of informational structure in French

秋廣 尚恵  
Hisae Akihiro

東京外国語大学大学院総合国際学研究院  
Tokyo University of Foreign Studies, Institute of Global Studies

**要旨:** 本稿は特集「情報標示の諸要素」(『語学研究所論集』第22号, 2017, 東京外国語大学)に寄与する。本稿の目的は25個のアンケート項目に対するフランス語データを与えることである。

### Abstract:

This report contributes to the special cross-linguistic study on ‘markers of informational structure’ (*Journal of the Institute of Language Research* 22, 2017, Tokyo University of Foreign Studies). The purpose of this paper is to offer the French data for the question of 25 phrases.

**キーワード:** 主語卓越型言語, 取り立て表現, 不定表現, 情報の縄張り

**Keywords:** subject-prominent language, emphasizing expression, indefinite expression, informational territory

### 1. はじめに

以下, アンケート項目の1から25までの例文のフランス語訳を掲げ, それぞれの項目ごとにコメントを加える。尚, フランス語訳の作成は東京外国語大学博士前期課程に在学するフランス人学生2名にお願いした。とりわけ両者の回答の間に有意義な違いが現れた場合にかぎり, それぞれの回答を併記する。

### 2. 主題卓越型類型論の軸項について

(1) 「この土地は野菜がよく育つ。だから高い値段で売れるだろう。」

Les légumes poussent bien sur cette terre.  
ART.DEF.PL N(野菜).PL INTR(生える).PRS.3PL ADV(よく) PREP(~の上に) ADJ.DEM.SG.F N(土地).SG.F  
C'est pour ça qu'elle se vend cher.  
PRES.PRS PREP(のために) PRN.DEM COMP PRN.3SG.F PRN.REFL.3SG TR(売る).PRS.3SG ADV(高く)

(2) 「私は頭が痛い。だから今日は休む。」

J'ai mal à la tête,  
PRN.1SG.SBJ TR(持つ).PRS.1SG N(痛み).SG.M PREP(~に) ART.DEF.SG.F N(頭).SG.F  
donc aujourd'hui je me repose.  
CONJ(だから) ADV(今日) PRN.1SG.SBJ PRN.REFL.1SG TR(休ませる).PRS.1SG



本稿の著作権は著者が保持し, クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス(CC-BY)下に提供します。  
<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

フランス語は Li and Thompson (1976)の分類にもある通り、主語卓越型言語である。(1)では、2人のインフォーマントが共に「この土地に(Sur cette terre)」という状況補語を主題の位置には置かずに訳している。文頭に現れるのは主語の「野菜(Les legumes)」である。通常、状況補語は動詞の後に置かれ、特別な文脈無しに、いきなり Sur cette terre...と始めることは不自然だ。だが、もし(1)の前文脈に既に「この土地」についての何等かの言及があれば、もちろん、主題化して Sur cette terre...という形で文頭に置くことは可能である。また「土地が売れる」という場合には、「土地」を主語女性代名詞 elle で受け、代名動詞の受動的用法によって、主語の位置に押し上げて表現する。(2)については、「私は頭が痛い」という日本語に見られるような主語と主題を共に述語の前に置く形式は取らない。「頭に(à la tête)」を状況補語として動詞の後に置き「私は頭に痛みがある」という表現がフランス語では用いられる。

### 3. 取り立て表現について

(3) 「あの人だけ、時間通りに来た。」

Il n'y a que lui qui est venu à l'heure.  
 PRES.NEG.PRS CONJ PRN.3SG.M REL.NOM INTR(来る).PST.3SG.M PREP(~に) ART.DEF.SG.F N(時間).SG.F  
 Seulement lui est venu à l'heure.  
 ADV(ただ~だけ) PRN.3SG.M INTR(来る).PST.3SG.M PREP(~に) ART.DEF.SG.F N(時間).SG.F

(4) 「これはここでしか買えない。」

Ça, on ne peut acheter qu'ici.  
 PRN.DEM PRN.INDF.3SG NEG VM(~できる).PRS.3SG TR(買う).INF CONJ ADV(ここ)

(5) 「その家にいたのは子供ばかりだった。」

Il n'y avait que des enfants dans cette maison.  
 PRES.NEG.IMPF CONJ ART.INDF.PL N(子供たち).PL PREP(~の中に) ADJ.DEM.SG.F N(家).SG.F

これらの3つの例はいずれも「限定」の表現を伴うものであるが、フランス語では、副詞 seulement (ただ~だけ)や二重否定 ne ~ que (…しかない)などを使って表すことができる。

(6) 「次回こそ、失敗ないようにしよう。」

La prochaine fois, on fera bien attention  
 ART.DEF.SG.F ADJ(次の).SG.F N(回・度).SG.F PRN.INDF.3SG TR(する).FUT.3SG ADV(よく) N(注意).SG.F  
 à ne pas échouer.  
 PREP NEG NEG TR(失敗する).INF

「こそ」はフランス語では訳しにくい。主題化して文頭に置くことで取り立てる以外あまり表現方法がない。

(7) 「疲れたね、お茶でも飲もう。」

On a bien travaillé hein !  
 PRN.INDF.3SG ADV(よく)+INTR(仕事をする).PST.3SG.M INTJ  
 On prend un petit café ou...?  
 PRN.IND.3SG TR(取る).PRS.3SG ART.INDF.SG.M ADJ.SG.M N(コーヒー).SG.M CONJ(あるいは)

「お茶でも」の「でも」反限定はフランス語での訳出は難しい。インフォーマントのうちの1人が、話し言葉であれば、上昇イントネーションを伴う「あるいは(ou)」をつけた形式で訳出が可能であるとす。このような ou の文末におかれる談話標識的用法は話し言葉では頻繁に見られるが書き言葉では見られない(ou は削除されてしまう)。

(8) 「水さえあれば、数日間は大丈夫だ。」

(「=少なくとも水があるから数日間は大丈夫だ。」実際に水があることが前提)

Si on a de l' eau, on peut  
CONJ(もし) PRN.INDF.3SG.M TR(持つ).PRS.3SG ART.INDF.PART.F N(水).SG.F PRN.3SG.M VM(できる).PRS.3SG  
tenir quelques jours.  
INTR(持ちこたえる).INF ADJ.INDF(幾つか) N(日).PL

(8) 「水さえあれば、数日間は大丈夫だ。」

(「=水だけでもあれば、数日間は大丈夫なのに。」水がないことが前提)

Si seulement on avait de l' eau,  
CONJ(もし) ADV(ただ~だけ) PRN.INDF.3SG.M TR(持つ).IMPF.3SG ART.INDF.PART.F N(水).SG.F  
on pourrait tenir quelques jours  
PRN.3SG.M VM(できる).COND.3SG INTR(持ちこたえる).INF ADJ.INDF(幾つか) N(日).PL

(9) 「小さい子供まで、その仕事の手伝いをさせられた。」

Même les petits enfants ont dû aider  
ADV(~でさえも) ART.DEF.PL ADJ(小さい).PL N(子供たち).PL VM(~ねばならない).PST.3PL TR(手伝う).INF  
à faire ce travail.  
PREP TR(する).INF ADJ.DEM.SG.M N(仕事).M.SG

「極端」を表す取り立てのフランス語の表現として一番よく用いられているのが副詞(形容詞, 代名詞としても機能する) même (～まで, さえも)であるが, このマーカーは既に取りたてるもの以外の他の要素に対しても, その文の真理条件が当てはまっていることが前提になっている。したがって(9)のような例(小さい子供も大きい子供も手伝いをさせられるということが論理的に含意されている)では容易に用いられるが, (8)(他のものはなくても水があることが論理的に含意される)で用いることは不可能で, 「水さえ」の「さえ」の取り立ての意味は形の上では明示せず, コンテキストから推察させるほうがむしろ普通である。また, インフォーマントによれば, (8)に無理やり「限定」の取りたて表現である seulement をつけた場合には, 反実仮想の意味が出てきてしまうそうである。

(10) 「私はお金なんか欲しくない。」

Moi, l' argent, ce n' est pas ce que je veux  
PRN.1SG ART.DEF.SG.M N(金).SG.M PRN.DEM.SG.M NEG COP.PRS.3SG NEG PRN.INDF REL.ACC PRN.1SG.SBJ TR(欲しがる).PRS.1SG

「なんか」や「なんて」という低評価の取り立て表現の訳出は難しい。(10)では「お金は私の欲しいものではない」と訳出されている。

(11) 「自分の部屋くらい、自分できれいにしなさい。」

Fais le ménage toi-même au moins  
TR(する).IMP ART.DEF.SG.M N(掃除).SG.M PRN.2SG-ADJ(～自身) PREP.ART.DEF.SG.M N(最小の).SG.M

dans ta chambre !

PREP(～の中に) ADJ.POSS.SG.F N(部屋).SG.F

「最低限」を表す取り立て表現は、**au moins** などが存在する。その他にも「遅くとも」**au plus tard** など、最上級を使うことが多い。

(12) 「私にもちょうだい」

Moi aussi, j' en veux.  
PRN.1SG ADV(～も) PRN.1SG.SBJ PRN.INDF TR(欲しがる).PRS.1SG

「類似」を表す取り立て表現はフランス語でもよく用いられる。副詞 **aussi** がその例である。

(13) 「お父さんもう帰ってきたね。お母さんは？」

Papa est déjà rentré hein ! Et maman ?  
N(お父さん).SG.M ADV(もう)+INTR(戻る).PST.3SG.M INTJ CONJ(～そして) N(お母さん).SG.F

「対比」を表す表現はいろいろある(**par contre**, **au contraire** など)のだが、事態を対比させることが多く、名詞のみを取りたてて対比させる場合にはいずれにしても使用が難しいと思われる。(13)でも取り立ての「は」は訳出不可能という結果であった。

#### 4. 不定表現について

(14) 「誰かが電話してきたよ。」

Il y a quelqu'un qui a téléphoné.  
PRES.PRS PRN.INDF REL.NOM INTR(電話する)+PST.3SG

(15) 「誰かに聞いてみよう。」

On va demander à quelqu'un.  
PRN.INDF.3SG. INTR(…てみよう).PRS.3SG TR(聞く).INF PREP(～に) PRN.INDF

(16) 「私のいない間に誰か来た？」

Il y a quelqu'un qui est venu pendant que je n' étais pas là ?  
PRES.PRS PRN.INDF REL.NOM INTR(来る).PST.3SG.M CONJ(～の間) PRN.1SG.SBJ NEG INTR(居る).IMPF.SG  
NEG ADV(そこに)

(17) 「誰か来たら、私に教えてください。」

Si quelqu'un vient, préviens-moi !  
CONJ(もし) PRN.INDF INTR(来る).PRS.3SG TR(予告する).IMP-PRN.1SG.DAT

(18) 「今日は誰も来るとは思わない・今日は誰も来ないと思う。」

Je ne pense pas que quelqu'un viendra aujourd'hui.

PRN.1SG.SBJ NEG TR(思う).PRS.1SG NEG COMP PRN.INDF(誰か) INTR(来る).FUT.3SG ADV(今日)

Je pense que personne ne viendra aujourd'hui.

PRN.1SG.SBJ TR(思う).PRS.1SG COMP PRN.INDF(誰も) NEG INTR(来る).FUT.3SG ADV(今日)

(19) 「そこには今誰もいないよ」

Non, mais il n'y a personne là maintenant !

NEG CONJ(強意) PRES.NEG.PRS PRN.INDF(誰も) ADV(そこに) ADV(今)

(20) 「(それは) 誰でもできる。」

Ça tout le monde peut le faire.

PRN.DEM ADJ(すべての).INDF.SG.M ART.DEF.SG.M N(人).SG.M VM(できる).PRS.3SG PRN.3SG.ACC TR(する).INF

(21) 「そんなこと (は), みんな知っているんじゃないか! ?」

Mais tout le monde le sait déjà, ça !

CONJ(強意) ADJ(すべての).INDF.SG.M ART.DEF.SG.M N(人).SG.M PRN.3SG.ACC TR(知る).PRS.3SG ADV(既に) PRN.DEM

(22) 「そんなもの, 誰が買うんだよ! ?, 誰も買うわけじゃないか!」

Franchement, qui va acheter un truc pareil !

ADV(正直に言えば) PRN.INTER(誰が) INTR(…だろう).PRS.3SG TR(買う).INF ART.INDF.SG.M N(もの).SG.M ADJ(同じような).SG.M

Il n'y a aucune chance que quelqu'un l'achète.

PRES.NEG.PRS ADJ.INDF.SG.F N(可能性).SG.F COMP PRN.INDF PRN.ACC.3SG.M TR(買う).PRS.3SG

不定表現については, 名詞の不定性を示す傾向がフランス語では強い。まず, 数量表現を伴う不定代名詞のシリーズがある: *quelqu-*, *chac(qu)-*, *plusieurs* など。中でも *Quelqu-* については単数形で用いられ, 特定既知を表す場合も, 非現実不特定を表す場合もある。また形容詞, 代名詞, 副詞など複数のカテゴリーにまたがって機能し, 「全体(もしくは全体を構成する任意の要素)」を表す *tout*, 逆に, 全否定的な意味を持つ *personne* 「誰も…ない」や *rien* 「何も…ない」がある。そして, 修辭的疑問文の中で用いられる一連の疑問代名詞 *qui*, *quoi* も不定表現としてよく用いられる。

## 5. 情報の縄張り理論

(23) 「君は英語がうまいね。」

Tu parles bien anglais hein !

PRN.2SG.SBJ TR(話す).PRS.2SG ADV(よく) N(英語).SG.M INTJ

(24) 「君は退屈そうだね。」

Tu as l'air de t'ennuyer hein !

PRN.2SG.SBJ TR(持つ).PRS.2SG ART.DEF.SG.M N(空気).SG.M PREP(～の) PRN.REFL.2SG TR(退屈させる).INF INTJ

(25) 「明日も寒いらしいよ。」

Demain aussi il paraît qu'  
 ADV(明日) ADV(～もまた) PRN.3SG.M.SBJ(非人称主語) INTR(～のようだ).PRS.3SG COMP  
 il va faire froid hein !  
 PRN.3SG.M.SBJ(非人称主語) INTR(…だろう).PRS.3SG INTR(～になる).INF ADJ(寒い).SG.M INTJ

情報の縄張り理論の観点から、話し手と聞き手の情報の縄張りのどこにある情報を示すかに応じて、日本語では終助詞「ね」「よ」の使い分けがなされている。フランス語でも、話し言葉において、hein, quoi, là といった文末にあらわれる様々な談話標識が用いられて、聞き手に向けられた様々なモダリティを示すことが知られている。ただし、これらの談話標識の研究はまだ始まったばかりで、それぞれの談話標識の機能の違いはまだはっきりと明らかにされていない。ここで挙げられた例では、いずれの例も hein が用いられている。Noda (2011)も指摘しているように、hein, quoi の使用は、発話をどのように聞き手に対して提示するかという聞き手に対する話し手の態度が深くかかわってくる。したがって、必ずしも情報の縄張り理論からその機能の違いは説明され得ないように思われる。これらのマーカの機能の違いについては今後また改めて研究したいと思う。

#### 略語リスト

1	1 人称	INTJ	間投詞
2	2 人称	INTR	自動詞
3	3 人称	M	男性
ACC	対格	N	名詞
ADJ	形容詞	NEG	否定
ADV	副詞	NOM	主格
ART	冠詞	PART	部分
AUX	助動詞	PL	複数
COMP	補語節	POSS	所有格
COND	条件法	PRN	代名詞
CONJ	接続詞	PREP	前置詞
COP	コピュラ動詞	PRS	現在
DAT	与格	PRES	提示詞, 存在詞
DEF	定	PST	過去
F	女性形	REFL	再帰
FUT	未来	REL	関係詞
IMP	命令形	SBJ	主語
IMPF	未完了過去	SG	単数
INDF	不定	TR	他動詞
INF	不定形	VM	法動詞
INTERR	疑問		

#### 参考文献

- Li, C. N. and S. A. Thompson (1976) Subject and topic: a new typology of language. In C. N. Li (ed.) Subject and topic. 457-489. New York: Academic Press.
- 高見健一 (2015) 「情報のなわ張り理論」 斎藤純男・田口善久・西村義樹 (編) 『明解言語学辞典』 120. 東京: 三省堂.
- Noda Hiroko (2011) Emplois des marqueurs discursifs et intersubjectivité: autour de *hein*, *Cahier de praxématique* 56, 77-89.

執筆者連絡先: [hisae-akihiro@tufs.ac.jp](mailto:hisae-akihiro@tufs.ac.jp)